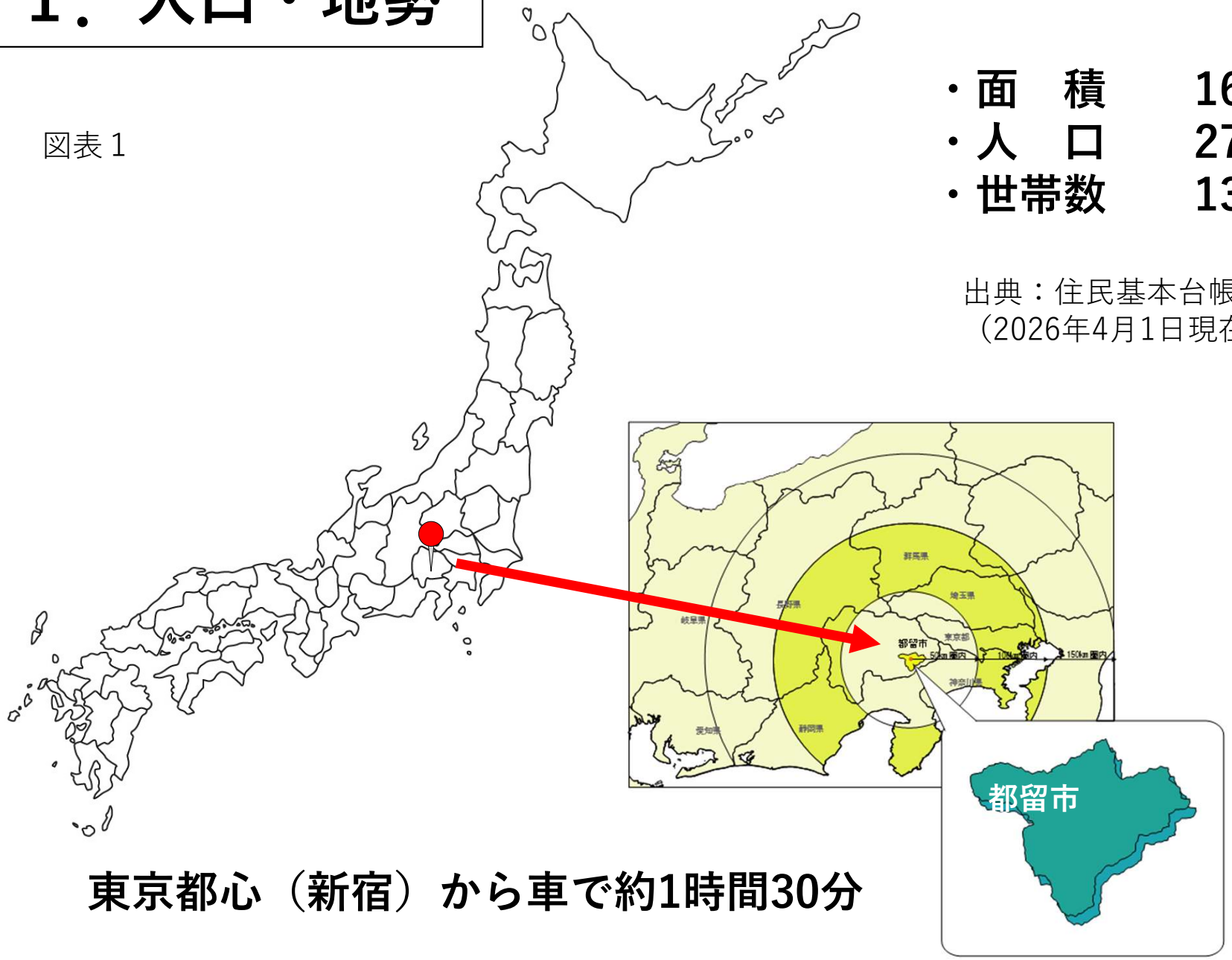
都留市セーフコミュニティ
全体説明

報告者　市民部　地域環境課長
廣瀬　敬太郎

本市の概要

1．人口・地勢

図表１



・面　積　　161.63㎢
・人　口　　27,628人
・世帯数　　13,167世帯

出典：住民基本台帳
（2026年4月1日現在）

東京都心（新宿）から車で約1時間30分

「都会から近い　ほど良い田舎まち」

2．特徴

（1）富士の麓の小さな城下町









（２）富士山の湧き水があふれる「湧水の里」









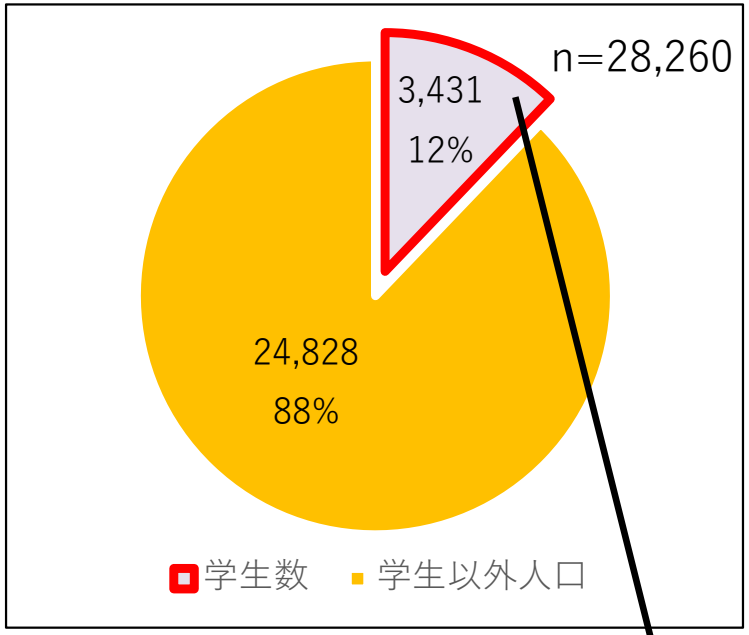
（３）公立大学法人　都留文科大学

「地域との連携」を教育の柱の１つとし、都留市をフィールドに地域と連携して学生を育成してきた。

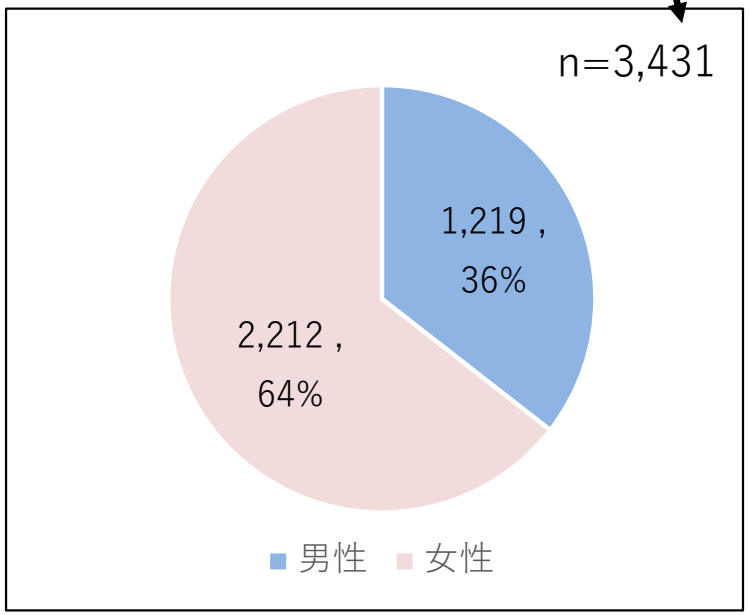
・人口の１割以上が都留文科大学の学生
・学生の６割以上が女性



図表２　人口に占める都留文科大学学生数



図表３　都留文科大学学生の男女比

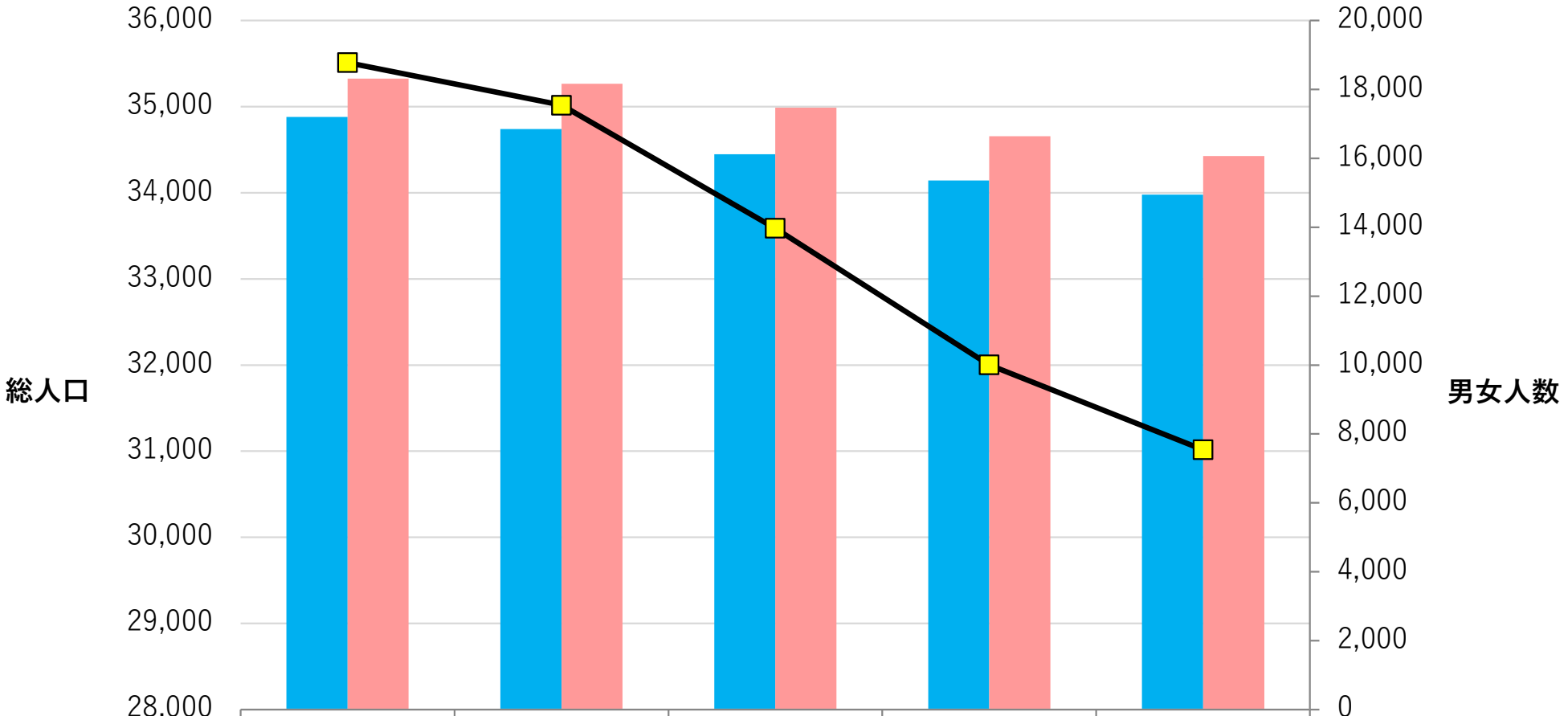


出典：都留文科大学データ（2025.5時点）

3．人口推移（男女別）

図表４

単位：人

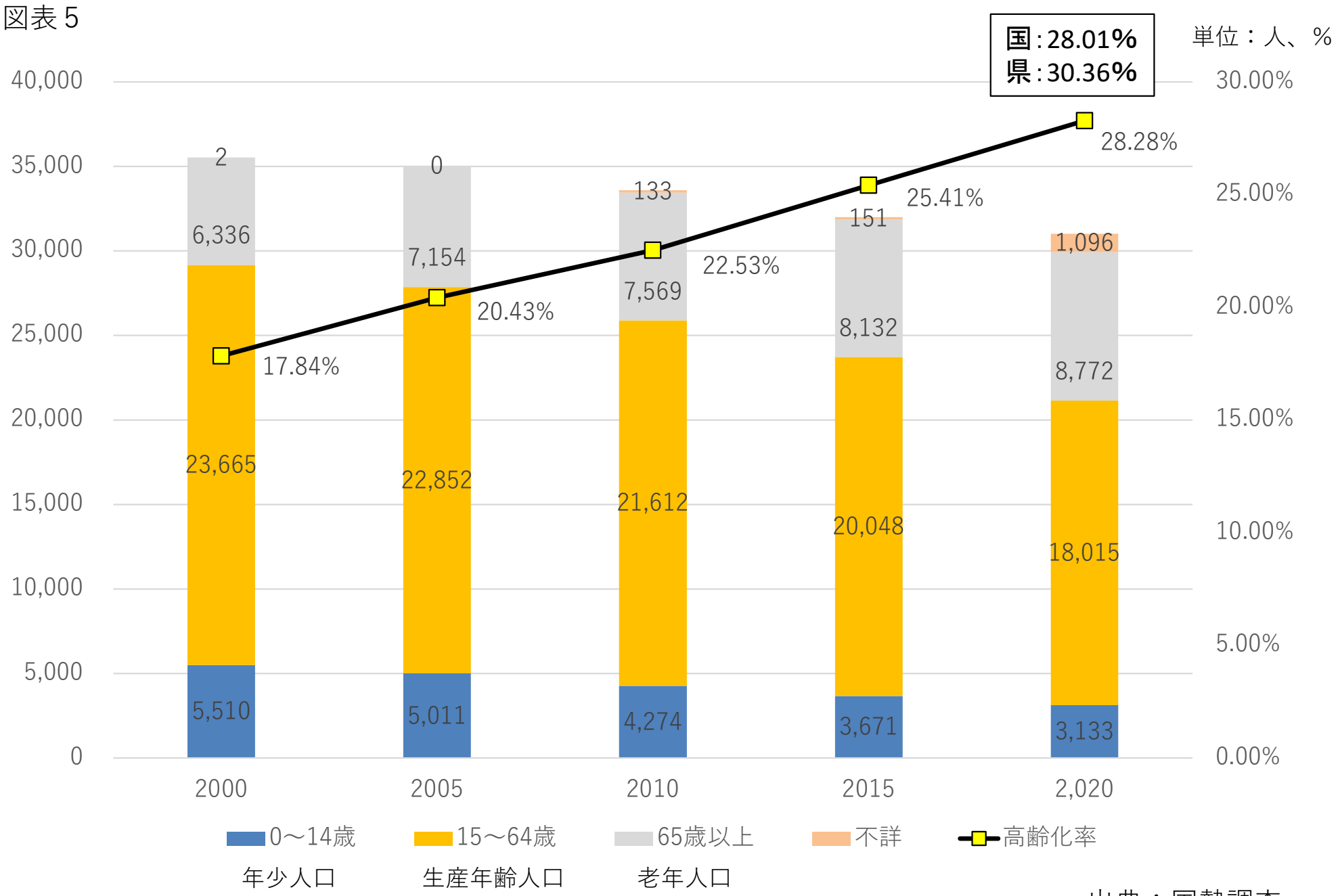


	2000	2005	2010	2015	2020
男性	17,202	16,849	16,117	15,358	14,949
女性	18,311	18,168	17,471	16,644	16,067
総人口	35,513	35,017	33,588	32,002	31,016

出典：国勢調査

４．人口推移（年齢３区分別と高齢化率）

図表５

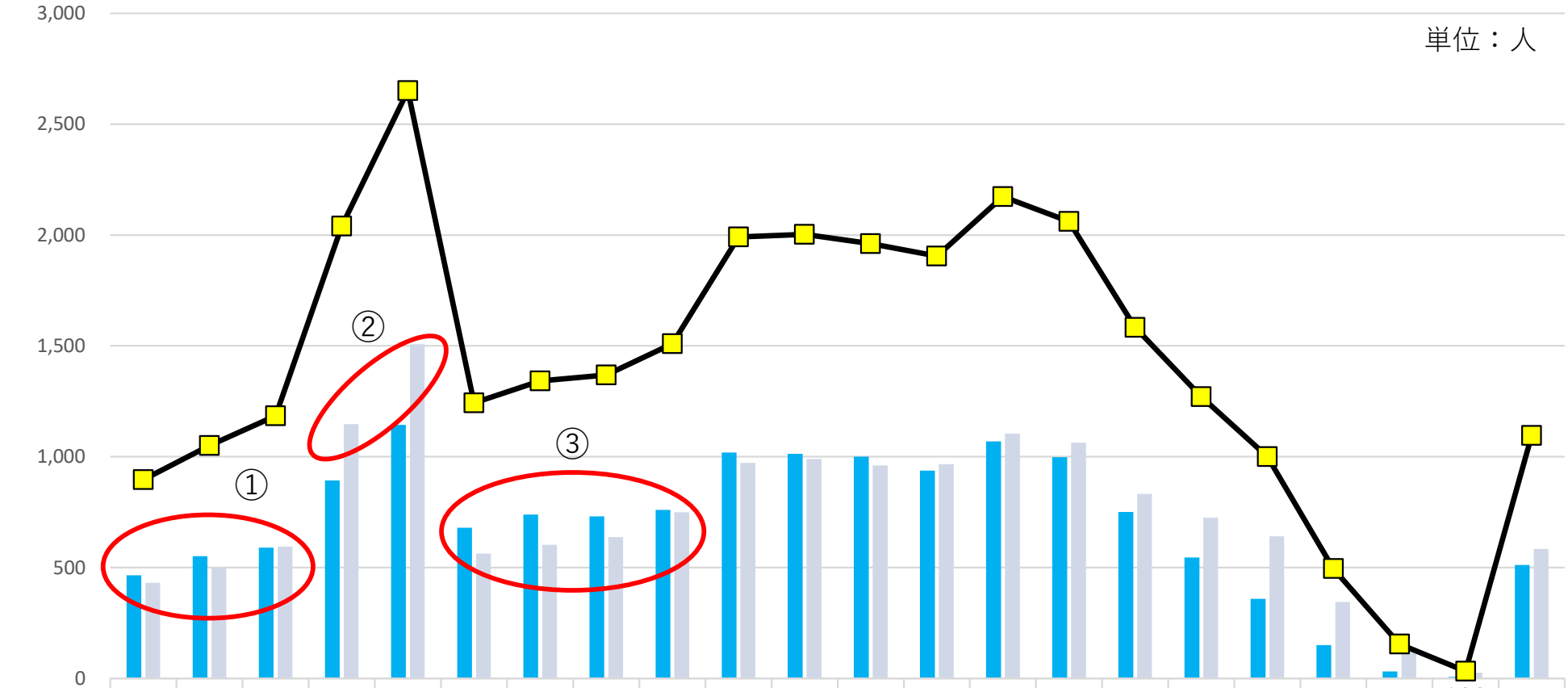


出典：国勢調査

5．人口構成

① 少子化が進んでいる
② 20～24歳が多く、特に女性が多い。
③ 20代後半から30代は、他の年代に比べ少ない。

図表６　男女別・年齢層別人口構成（2020年）



	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上	不詳
男	465	552	590	893	1,144	680	739	731	760	1,019	1,013	1,000	938	1,069	998	751	546	359	151	32	7	512
女	432	499	595	1,147	1,507	563	603	638	750	972	990	961	967	1,104	1,063	832	725	641	345	123	26	584
合計	897	1,051	1,185	2,040	2,651	1,243	1,342	1,369	1,510	1,991	2,003	1,961	1,905	2,173	2,061	1,583	1,271	1,000	496	155	33	1,096

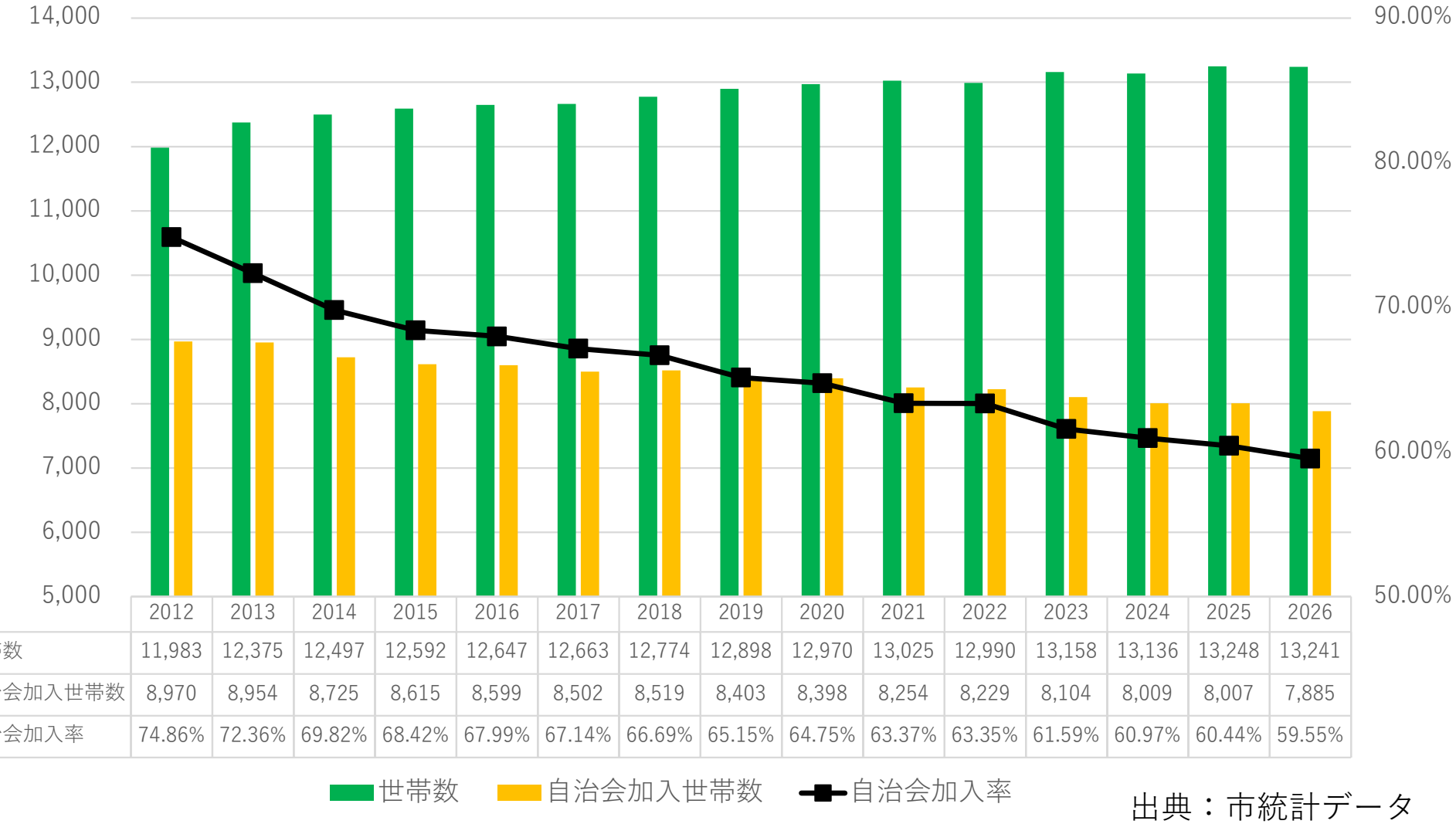
出典：国勢調査

6．自治会加入率

※自治会･･･地域住民の交流や地域活動を行うためのコミュニティ
2026年4月現在で88自治会

図表７　自治会加入率の推移

単位：人・％



	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
世帯数	11,983	12,375	12,497	12,592	12,647	12,663	12,774	12,898	12,970	13,025	12,990	13,158	13,136	13,248	13,241
自治会加入世帯数	8,970	8,954	8,725	8,615	8,599	8,502	8,519	8,403	8,398	8,254	8,229	8,104	8,009	8,007	7,885
自治会加入率	74.86%	72.36%	69.82%	68.42%	67.99%	67.14%	66.69%	65.15%	64.75%	63.37%	63.35%	61.59%	60.97%	60.44%	59.55%

出典：市統計データ

・世帯数は増加傾向（核家族化・外国人世帯の増加等）
・自治会加入世帯数及び加入率は減少傾向

7．地域協働のまちづくり推進会

各地域の特色を活かしながら、様々な団体と連携した地域づくりを地域住民が自主的に取り組み組織として、2005年に7地域すべてで発足。

【主な構成団体】

自治会、社会福祉協議会、消防団、
体育振興協会、民生児童委員、
老人クラブ、小中学校、PTA　など



図表８
7地域区分図

【実施事業】

・健康増進
・地域と学校の連携
・環境美化
・防災
・防犯
・広報誌の発行
・文化
・スポーツ

文化祭



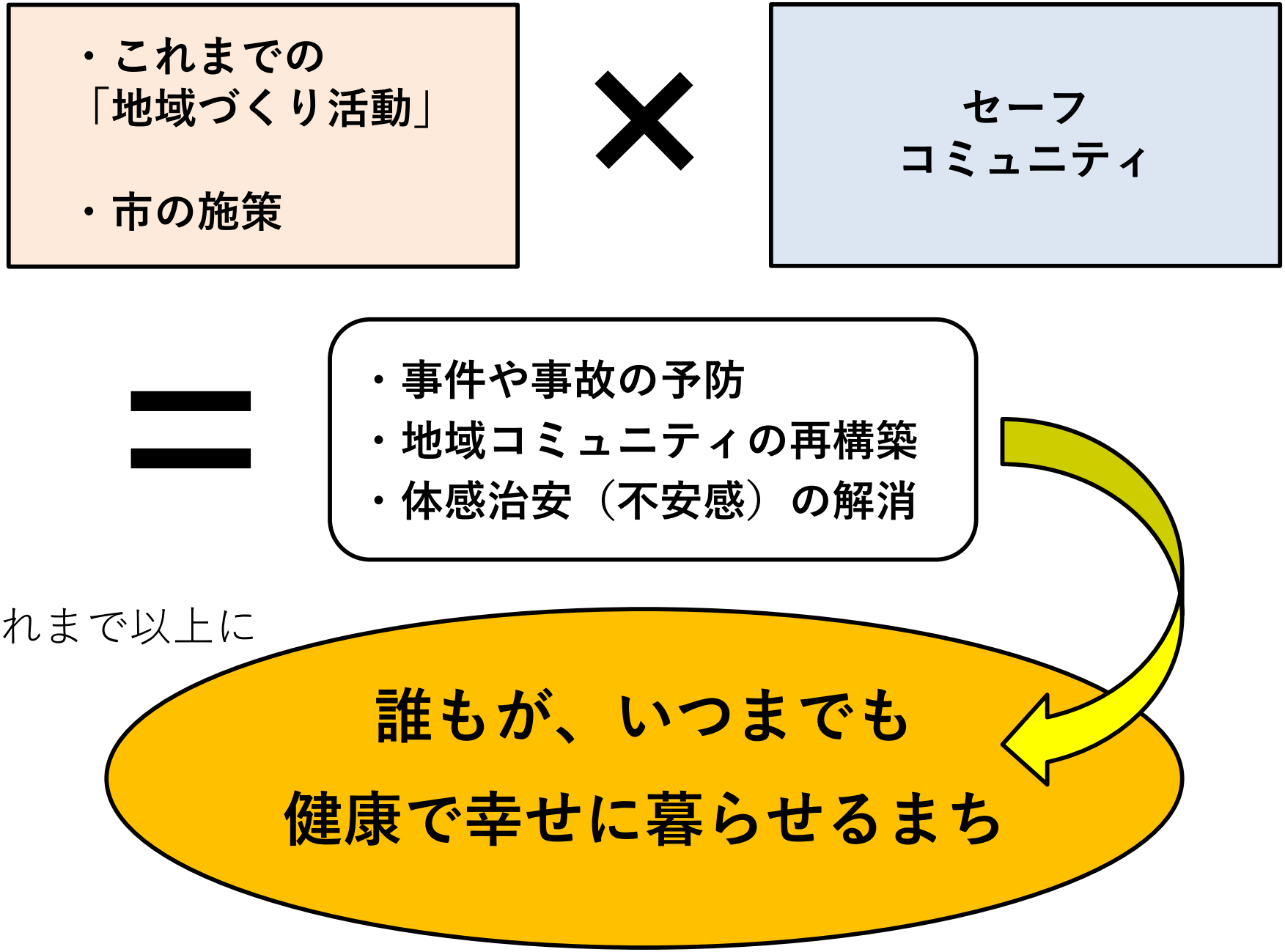
地域の清掃



セーフコミュニティ
導入の経緯

セーフコミュニティ導入の経緯

図表９



セーフコミュニティ
これまでの歩み

セーフコミュニティの取組の経過

2018.4　セーフコミュニティ取組宣言（書簡提出）

2018.8　セーフコミュニティ推進協議会の設置

2018.10　６つの重点分野、対策委員会の設置

2019.11　分野ごとの重点課題の選定

2019.12～　重点課題に基づく取組活動の企画・実践

2021.3　1度目の世界認証取得・活動の展開

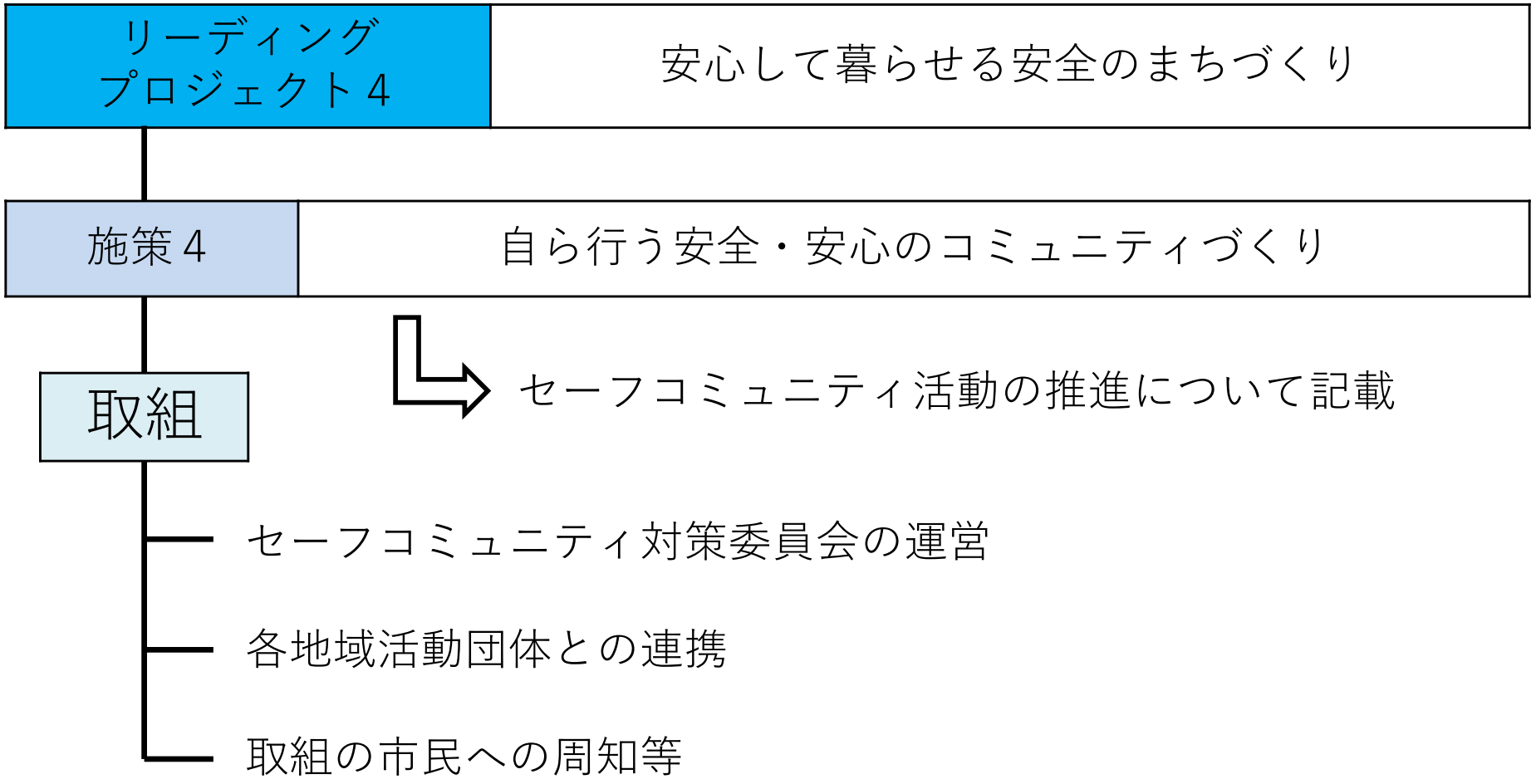
2025.8　再認証に向けた事前指導の実施

セーフコミュニティ
６つの指標に基づく取組

指標１：ガバナンス（分野横断的な組織体制）

『第６次都留市長期総合計画』との関係性

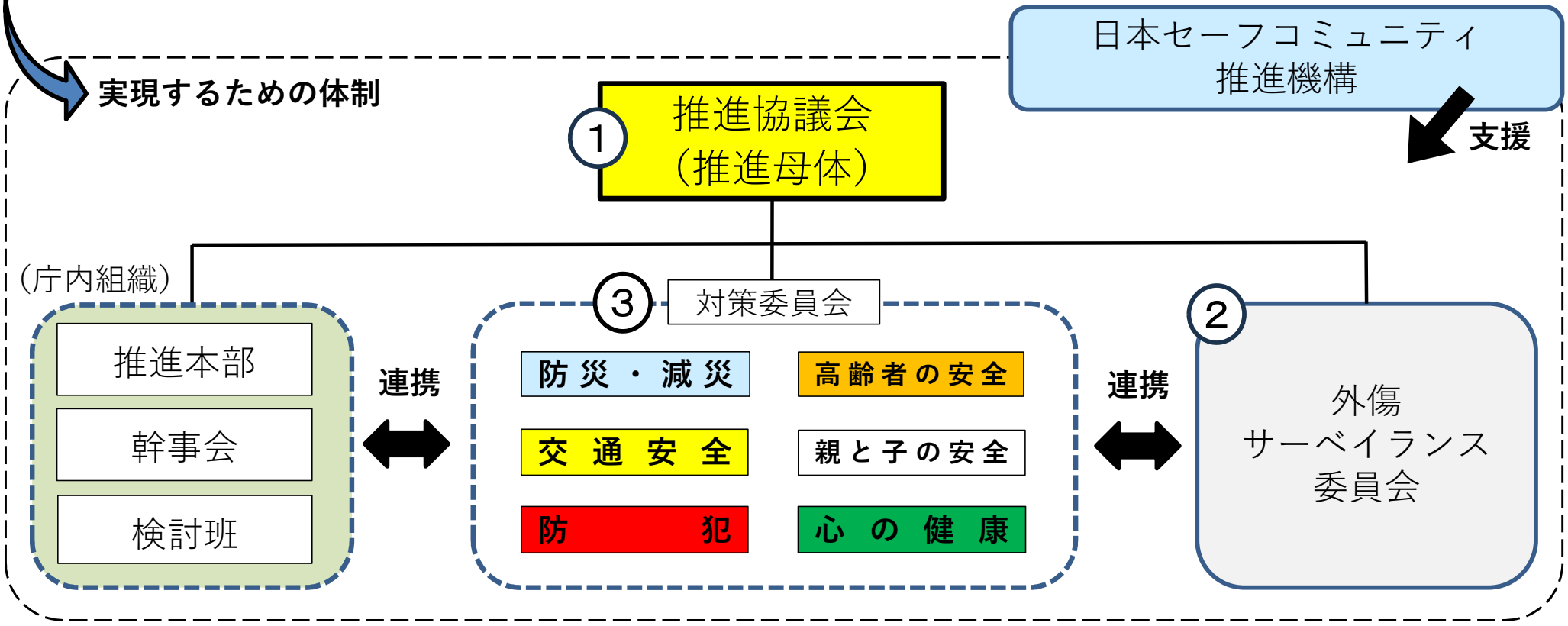
目指すべき将来像：「ひと集い　学びあふれる　生涯きらめき　のまち」



セーフコミュニティの推進体制

①行政の施策と地域や市民の活動との協働
②組織や団体を越えた協働
③組織や団体内で部や課を越えた協働

図表10



市民に対する活動の展開

①推進協議会

構成：42名（36団体）

地域、学校、警察、県、大学など

役割：活動の方針決定・活動の推進

対策委員会の活動発表

開催：2回

6月（活動計画の承認）

翌年2月（活動実績の確認）



②サーベイランス委員会

構成：12名（10団体）

医師、大学教授、警察、行政など

役割：活動に係るデータの収集・分析

対策委員会への助言

開催：1回（2月）



③対策委員会　合同会議（2024.6.7）

【内容】
①自身の対策委員会の活動発表
②ワークショップ
～セーフコミュニティの認知度を上げるために自分ができること～

【効果】
様々な立場から「自分」に何ができるか
を話し合い、活動促進のヒントを探した。

【工夫】
対策委員会を混ぜたグループにすることで、委員会を超えた交流の機会を作ることができた。

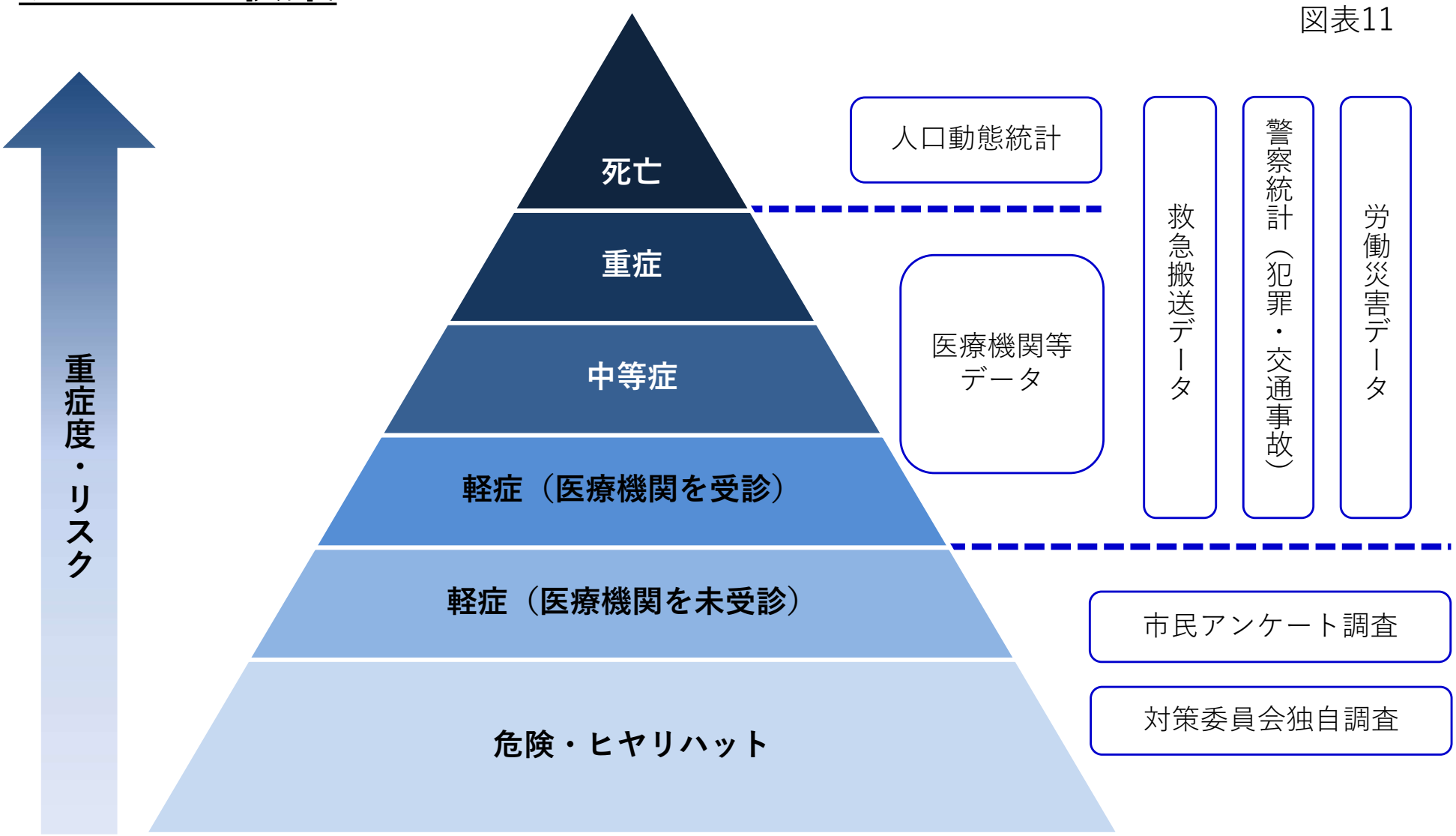




指標２：サーベイランス（データ収集・安全診断）

データの収集

図表11



指標３：包括性・エビデンスベース（網羅的な取組）

「安全・安心なまちづくり」の取組数（2025年度）

行政・地域住民・関係団体等が独自、または連携した取組：117事業

図表12　　出典：市統計データ

要因	項目	取組数		子ども（0～14歳）	青年（15～24歳）	成人（25～64歳）	高齢者（65歳以上）
不慮の要因	家庭の安全	48	対象	20	17	20	34
	学校の安全	7		5	2	2	2
	職場の安全	5		0	5	5	5
	余暇・スポーツの安全	6		3	3	4	5
	公共の安全	9		9	9	8	8
	交通安全	15		13	15	15	14
	自然災害	14		14	14	14	14
意図的要因	暴力（DV・虐待含む）	7		6	6	3	3
	自死・自傷	6		4	6	6	5

対策委員会のプログラム設定背景

図表13

対策委員会	データに基づき導き出した問題点
防災・減災	地震災害による主なケガの原因は家具等の転倒・落下であるが、防止対策を講じている家庭は20％程度と低い。
	台風などの大雨の際、防災無線は聞こえづらいが、防災無線以外の情報収集手段（防災メール等）を確保している市民は少ない。
	防災リーダーや避難行動要支援者の支援体制が整っている地域が少ない。
	大規模災害時は、避難所でのストレス等が理由の災害関連死が多い。
交通安全	交通事故第一当時者における10・20代の若者の割合が高い
	国道１３９号での事故が多い
	交通事故発生件数は減少傾向だが、歩行者事故は増加傾向にある。
	夕夜間における歩行者事故が多い。

対策委員会	データに基づき導き出した問題点
防犯	全国や県と比較して、侵入盗（空き巣・忍び込み）の認知件数が多い。
	刑法犯認知件数に占める非侵入盗の割合が高く、特に「万引き」「自転車盗」が多い。
	不審者情報が特定の地区で多く、不審者対策を望む学生が多い。
	詐欺に関する相談件数が増加し、詐欺被害に不安を感じている市民が多い。
高齢者	一般負傷による救急搬送のうち、約70％が「転倒・転落」である。
	高齢者における外的要因による死亡原因は、「転倒・転落」が最も多い。
	一般負傷による救急搬送のうち、「誤嚥・誤飲」が「転倒・転落」に次いで多い。
	年齢が高くなるほど高齢者の閉じこもり傾向が高くなる。

対策委員会	データに基づき導き出した問題点
親と子の安全	乳幼児期は、転倒・転落によるけがが家庭内で発生している。 ⇒乳幼児期の家庭における安全対策が不十分
	小学生の保健室来室件数は、児童数の減少しているにも関わらず増加傾向にある。
	乳幼児期の育児に不安を感じている親が多いが、気軽に相談できる場が少ない。
	子どもの虐待が多いが、虐待に対する正しい認識がされていない。
心の健康	悩んでいても誰かに相談できない人が多い。
	20代前半の自尊行為による救急搬送が多く、20代の自殺が多い。
	40～60代の「働き盛り世代」における自殺者が多い。

指標４：ハイリスクへの取り組み

図表14

		子ども	大学生・若者	働き世代（40～60代）
場所	家庭	自宅でケガをしやすい 虐待のリスク →親と子の安全対策委員会	―	―
	公共の場	不審者の声掛け →防犯対策委員会	交通事故を起こしやすい →交通安全対策委員会 不審者の声掛け（女性） →防犯対策委員会	―
状況	災害	健康リスクが高い →防災・減災対策委員会	―	―
	その他	―	悩んでいる人が多い →心の健康対策委員会	自殺が多い →心の健康対策委員会

		高齢者	子育て中の保護者	女性
場所	家庭	電話詐欺にあいやすい →防犯対策委員会 転倒・転落が多い 誤飲・誤嚥が多い →高齢者の安全対策委員会	相談できる場所がない →親と子の安全対策委員会	―
	公共の場	車に轢かれやすい →交通安全対策委員会	―	―
状況	災害	健康リスクが高い →防災・減災対策委員会	―	避難生活での立場が弱い →防災・減災対策委員会
	その他	家に閉じこもる人が多い →高齢者の安全対策委員会	―	―

指標５：評価・継続的な改善の仕組み

「S＋PDCAサイクル」に基づいてアセスメントを実施

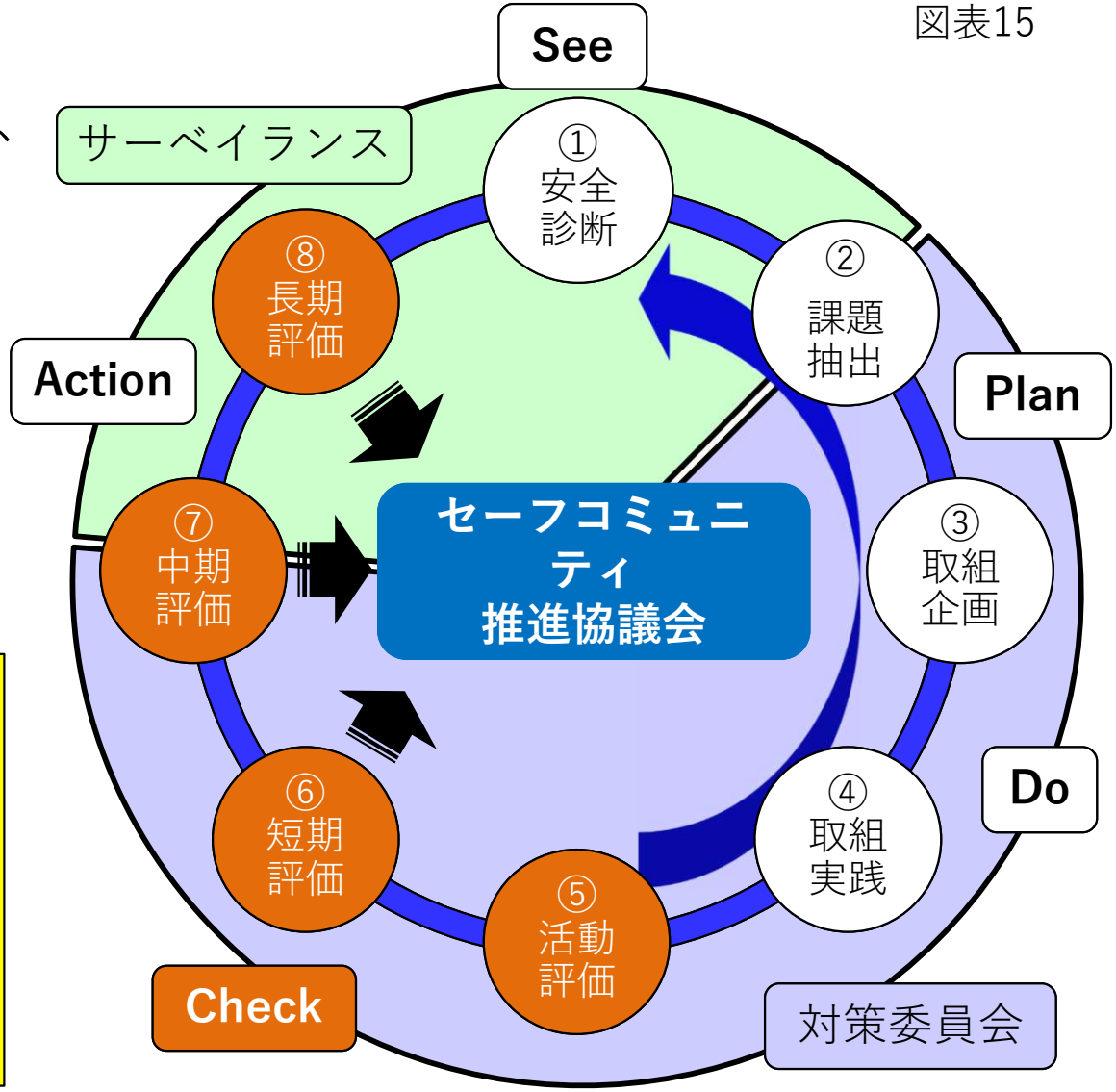
【実施内容】
・推進協議会における年間活動計画、年間活動報告の共有
・外傷サーベイランス委員会でのデータ収集・分析
⇒対策委員会への助言
・アドバイザーからの支援・助言
・対策委員会による自己評価（活動の振り返り）

本市は、１回目の認証で基盤が整った状態。

認証を受ける ≠ ゴール

常に改善し続ける

図表15



ダイアローグ（JISC）

JISCの白石アドバイザーとのダイアローグを毎年実施



指標６：国内外のネットワーク参加

国内ネットワークへの参加

図表16

年	区分	内容	参加方法
2021	現地審査	神奈川県厚木市	
	現地審査	埼玉県さいたま市	
	会議	全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議	
	事前指導	福島県郡山市	オンライン
2022	事前指導	大阪府松原市	オンライン
	現地審査	東京都豊島区、福島県郡山市	
	会議	全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議	
2023	現地審査	福岡県久留米市、大阪府松原市	現地視察
	会議	セーフコミュニティ安全安心のまちづくり全国協議会	オンライン
	交流	**福島県郡山市　視察受け入れ　※後ほど説明あり**	**対面**
2024	事前指導	埼玉県さいたま市	現地視察
	現地審査	青森県十和田市	現地視察
	会議	全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議	オンライン
		セーフコミュニティ安全安心のまちづくり全国協議会	
2025	現地審査	埼玉県さいたま市	現地視察
	会議	第1回国際安全都市アジア市民大会in京都・亀岡	現地参加
	事前指導	事前指導の実施（他市町村の受け入れ）	実施
	会議	全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議	オンライン
		セーフコミュニティ安全安心のまちづくり全国協議会	

下記に加えて、JISCが開催する研修会・定例会にも毎年参加

視察の受け入れ（福島県郡山市）2024.1.18

【経緯】対策委員会の活動が行政主導となっている現状に悩む郡山市に、白石アドバイザーが委員主導で活動を行っている本市への視察を勧めたことから実現。

【内容】①６対策委員会との意見交換　　②対策委員会会議の見学（交通安全・防犯）

【成果】

郡山市…会議の進め方や意識の高い市民の姿を見て良い参考となった。

都留市…他市から評価いただくことにより、事務局・委員のモチベーションが上がった。

①写真（交通安全、防犯、防災・減災）



②写真



国外ネットワークへの参加

会議への参加だけでなく、白石アドバイザーからいただいた海外審査員参加の機会を活かし、本市のセーフコミュニティ活動を理解いただいた。

図表17

年	区分	内容	参加方法
2022	会議	第10回アジア地域・第25回世界SC会議	オンライン
2023	対話	対策委員会ダイアローグにパク・ナムス先生が参加	対面
2024	イベント	SCイベントにミーガン・ブラーザートン先生が参加	
2025	会議	第11 回アジア 地域セーフコミュニティ会議	対面

2023ダイアローグ



2024　SCイベント



活動の工夫について

イベントの開催（SCつるまつり2024）

セーフコミュニティを市民へ広く周知するため、認証取得後、毎年イベントを開催。
2024年度は、従来の活動発表形式から「お祭り」をイメージした形式に内容を大幅変更した結果、多くの市民に来場していただくことができました。

1階ロビーの様子



ISSの発表



体験ブース（高齢者の安全対策委員会）



起震車体験



ステージ発表



啓発ブース（交通安全対策委員会）

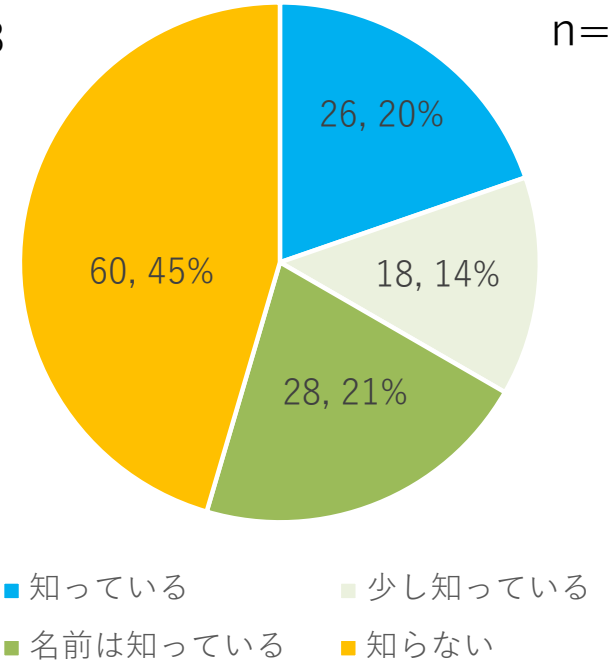


イベントの開催（SCつるまつり2024）

イベント内容

・ステージ発表（10団体）　（SC対策委員会：5、ISS：2、市民団体：3）
・体験ブース（16団体）　（SC対策委員会：6、市民団体等：10）
・パネル展示（4団体）
・キッチンカー（7店舗）
・スタンプラリー
・抽選会

図表18　n=132



来場者の一部への認知度アンケート結果

45%がセーフコミュニティを知らなかった。
⇒　セーフコミュニティを知らない市民へアプローチすることができた。

形式変更による来場者（関係者以外）の変化

2023年：19人　⇒　2024年：約300人
（1,478%増）

委員会独自のアンケート・調査

短期・中期指標に関するデータの取得やビッグデータを補完するための定量・定性データの取得、活動の効果検証などの目的で対策委員会が独自に実施をしている。

横断歩道調査2023
（交通安全対策委員会）



市イベントでのアンケート調査
（高齢者の安全対策委員会）



ご清聴ありがとうございました